

英語 全方式共通

〈出題内容・形式・配点〉

内容	形式	配点	試験時間
I 長文総合問題	マーク	29	80分
II 長文総合問題	マーク	31	
III 会話文	マーク	24	
IV 文法・慣用句	マーク	16	
V 語句選択英文完成	マーク	20	
合計		120	

*合計点が各学部(専攻等)および各入試方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

【出題の基本方針】

本学の諸学部において教育を受けるにふさわしい、基本的な英語力を備えた受験者を選抜するために、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正に測定できる内容で出題することを基本方針とした。

【各設問の方針と内容】(全日程共通)

I 750～850語程度の英文をもとにした、大意把握と内容理解の力を試す問題である。[1]は、英文の意味・内容に関する問いが英語で提示され、[2]は、与えられた5つの文が英文の内容と一致するか否か、あるいは英文の内容からだけでは判断できないかを問う、より正確な内容理解を試す問題である。[3]は、英文を総合的に理解しているか(主旨の理解ができてきているか)を問う。

II 750～850語程度の英文の内容理解を試す問題で、細部の正確な理解が要求される。[1]は文中の空所に当てはまる語(句)を選ぶ問題である。空所の直前・直後だけでなく、英文全体の話の流れを正確に把握する必要がある。[2]は英文の中の代名詞などの語(句)が、何を指しているか、何を意味しているかを、選ぶ問題である。何かを指示する語(句)が具体的に何を意味しているのかを意識的に考えながら読むことによって正確な理解ができてきているかを試す。

III 二人の対話文をもとにした問題である。対話中の空所を埋めるのにもっとも適当な表現を選択肢から選ぶ形式である。さまざまな場面で、話の流れを正確に掴みながら話し手の意向や気持ちなどを理解することができるか、また、適切な表現で応答し必要な情報を伝えることができるかを試す。人との関係を円滑にする(挨拶や呼び掛けなど)、相手の行動を促すなど、いろいろな言語の働きをする英語表現に親しんでおくことが必要である。

IV 文法事項に関する問題である。空所を埋めることによって英文を完成させる問題である。基本的なものを中心に、動詞、副詞、形容詞、接続詞、前置詞など様々な品詞に関して、適切な英語で表現する力を試す。

V 語彙に関する問題である。[1]は英文の空所を埋めるのにもっとも適当な単語を選ぶ形式で、文脈から語を導き出す問題であり、[2]は、文中の下線部と同じ意味の語を選択する同義語の問題である。教科書に出てくるような基本的語彙をはじめ、自立した英語使用者に必要な語彙を幅広く身につけておくことが期待される。単に単語の意味を知っているのではなく、その単語が英文の中でどのように使われるか、連語関係などにも注意を払いながら学習しているかが試される。さらに、その単語を他の単語で置き換えることができるかどうかを試されている。一つの単語に対する一段と深い理解が必要となる。

【学習のポイント】

- 文章の大意を取ることができたら、今度は一つ一つのパラグラフが何を言っているのかをキーワードなどを使って短い語句で示して、内容を掴みながら次のパラグラフに進んで行くことが必要である。そうすれば、細かい部分も正確に把握でき、論理的な流れも正確に掴めるはずである。
- 会話文や表現については、普段からインターネット上にある会話動画や映画などにできるだけ楽しく親しむことも必要である。面白い表現などをノートに取って見直すのも役に立つだろう。1週間や1ヶ月毎に最初から見直し、実際に口に出して言うことも大切である。同じ状況に遭遇すれば、自然に言葉が出てくるであろう。
- 語彙は言語習得の基礎中の基礎である。CDやDVDのついている単語集やインターネット上にある単語学習プログラムなどを活用し、気に入ったものを選び、耳で聞き、同時に口ずさみ、目で確認し、意味を考えながら書くなど、全ての感覚を使って覚えることが大切である。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を総合的に伸ばす力になるだろう。